



2026.3.16

瀬戸ひなご幼稚園園長 神戸洋美

子育てで重要なこと

自分が子育て世代だったのは約40年前。その頃は子育てについての育児書は本屋さんで購入できるものしかなく、TVでもあまり取り上げられませんでした。初めての子育てに、これで良いのかと迷いながら、いつの間にか我が子は大きくなっていきました。

現代社会ではネット検索ですぐに情報が出てきて、その情報の多さに逆に迷ったり不安になったり、その通りにできない自分の子育てを責めたりしていないでしょうか？幼児教育の現場にいる自分が多くのお子さんや保護者の方々と接し、そして自分の子育てを振り返ってみて一番重要だと思ったのは、「パパとママが仲良くしていること」です。ご両親が安らかな心でいれば、おさんは安心して、ご機嫌で笑顔の毎日が暮らせるからです。最近、スポーツドクターの辻秀一さんの書かれた文章にふれる機会があり、その内容に近いものを発見したので、ご紹介したいと思います。



『「子育てで最も重要なことは、親がご機嫌であること」です。世の親御さんたちは、子どもに何かしてあげるためのノウハウばかりを求めがちで、自分自身の状態にはあまり目を向けていません。子育てにおいて最も重要なのは、子育てしている親自身がご機嫌にいることです。（中略）家庭ではなるべく非認知的な声掛けをしてあげましょう。例えば「どう感じた？」「どんな気持ちになったの？」と子どもが自身の感情に気付くような言葉をかけてあげるのです。そのことで子どもは「自分がご機嫌な時には勉強や習い事がうまくいったり、友だちと仲良くできたりするのだ。」と気づき、それが成功体験となって、自らご機嫌な表情、態度、言葉を選ぶことができるようになります。』と書かれていました。ご両親の心はそのまま子供に伝わります。以心伝心、全ての子どもたちがいつも笑顔でいられますように、と願ってやみません。



最後までわかっていたなら・・・

15年前の3月11日、東日本大震災が起こりました。多くの方々が犠牲となり、3月1日現在、死者は1万5901人、行方不明者は2519人となっており、今も捜査活動が続けられています。その東北を襲った津波は、岩手県でも海辺の町が壊滅的な被害を受け、あわせて5000人以上が犠牲になりました。

多くのメディアが取り上げましたが、その中で心に響いたニュースがありました。震災についてのある広告を利用した「最後までわかっていたなら」という授業が行われているというものです。『最後までわかっていたなら、大切な人とのひとときをもっと大事にすれば良かった。』被災者たちがそう後悔する動画が学校の授業で使われ、若者の心を動かしました。授業に使われている広告は、岩手県の新聞社「岩手日報」が出したものです。一部を紹介します。

『3月11日。それはすべての人が明日が来ることは当たり前ではない、と知った日。すべての人に関係する日にすることで風化をふせぎたい。岩手日報は、3月11日を「大切な人を想う日」にできないか、と考えました。あの日の悲しみと教訓を永遠に語り継ぎたい、と2018年3月11日に始めたこの運動には、2万3千人を超える皆さんからの署名が集まりました。』

その授業を受けた生徒さんたちが次のように感想を述べています。『「家族」に「いつもありがとう。だいすきだよ」を伝えたい。』『朝起きられること、ご飯が食べられること、学校に行けることなど当たり前のことを当たり前と思わずに生活しようと思う。』『大切な人たち」に「大好きだよ」って伝えたい。』今日が、最後の日だったとしたら・・・。1日1日を大切に過ごしたいですね。

最後まで「めばえ」を読んでいただきありがとうございました。ご家族皆様のお幸せを願っています。